

## ◆ 大会に参加するチームへの注意事項 ◆

ここに掲げる注意事項は、野球規則、競技者必携、東京都軟式野球連盟規則を基本とし足立区少年軟式野球連盟が定めた規則です。主催する大会の試合に適用致します。大会に参加するチームは必ず事前に確認して参加をお願いします。

### 【競技運営に関する注意事項】

#### 1. ベンチ入りの人数

- ・ 監督30・コーチ28・コーチ29(ユニフォーム着用)
- ・ チーム登録人数は、選手10名以上20名以内(背番号は0～99・主将は10番)  
なお、主将は「Cマーク」をユニフォームシャツの右袖または前面に限り掲出できる。  
R5.04.16加筆
- ・ ベンチ入りは登録されたユニホーム着用の監督、コーチ29, 28番と・チーム責任者・マネージャー・スコアラーの6名とする。

【感染予防対策において各グラウンドルールベンチ入り人数を確認すること。】

但しチーム責任者・マネージャー・スコアラーのユニフォームおよび審判服(スラックスは除く)着用でのベンチ入りは不可とする。

- ・ 夏場の選手保護のために父母のベンチ入りを2名を限度として許可することがある。
- ・ 学童大会において守備の時間が長い場合(15分～を目安)健康維持を考慮して、本部、審判員の判断で給水タイムを設けることとする。  
(当連盟はロスタイムはとらないので、給水後速やかに戻ること。)

#### 2. 打順表の提出について

試合開始予定時刻30分前までに、監督または代理人が本部に提出し照合を受けること。

- ・ 記載に間違いのないよう十分確認すること。(特に氏名、背番号)(登録された選手全員を記入する)
- ・ 30分前に来られないときには該当グラウンド本部に連絡を入れること。  
(ペナルティーを課す場合がある。)
- ・ 試合開始時及び試合終了時には9名以上いない場合はチームは棄権とみなす。
- ・ ベンチは組合せ番号の若い方を一塁側とする。
- ・ 攻守の決定は、監督と主将および役員または審判員立合いのもと本部前にて行う。
- ・ 監督不在でも試合は認めるが、代理の場合は、打順表の監督覧に「代理」と必ず明記すること。
- ・ グラウンドルールの説明を受ける。

※試合日程及び試合開始時間は足少連公認試合が優先となります。各リーグ戦、その他ローカル大会の参加は考慮いたしません。

3. 試合前の練習等において、30・28・29番の登録された監督・コーチのみがグラウンド内には入ることができる。また、ユニフォームを着た監督・コーチはすべて練習に参加できる。
4. 試合開始前(グラウンドの準備中)の投手の投球練習はベンチ前で行わない。  
コーチアズボックスより外野寄りで行う。また捕手はマスクを含み装具を着用すること。
5. 試合中むやみにベンチを離れグラウンドの外に出ないこと。

・許可なく離れた場合、再びベンチに戻ることはできない。

6. 試合中にプレイの邪魔をするような声を発してはいけない。(審判の判定を惑わす声も含む。)
  - ・ベンチ内からの声だけでなく、応援席からの声も同様とする。
  - ・投手が投球動作を開始したら投手の動揺を誘うさような声を発してはならない。(上記により投球動作が止まってしまった場合は、ボールを取らずに無効とする。)
7. 自チーム、相手チーム問わず選手に対する暴力・罵声・暴言は禁止する。(退場を課す場合がある。)
8. グラウンド内及び近隣周辺は禁煙である。(練習でも同様。)
9. 抗議ができるのは、監督と当該プレイヤーの内1名とする。
  - ・打球がフェアかファウルか、投球がストライクかボールか、あるいは走者がアウトかセーフかという裁定に限らず審判員の判断に基づく裁定は最終のものであるからプレイヤー、監督、コーチ又は控えのプレイヤーが、その裁定に対して異議を唱えることは許されない。又どのような提訴もゆるされない。
10. 塁上の走者、あるいはコーチボックスやベンチから守備側のサインを盗み、それを打者に伝達することを禁止する。
11. ベンチ内での電子機器(携帯電話・パソコン等)の使用及びカメラ、ビデオの撮影を禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。指示用メガホンは、ベンチ内に限り1個の使用を認める。
12. 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けた時には、その程度を問わず球審は臨時代走の処置を行う。塁上の走者が負傷した場合で、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判員が判断した時は、臨時代走の処置を行うことができる。 R5.04.17加筆

## 【競技上の注意事項】

1. 捕手は捕手用ヘルメットを着用しファウルカップを着用する。(少年・学童とも)
  - ・審判員は口頭で着用の有無を確認する未着用が発覚した場合は、大会本部派遣理事が当該チーム監督と協議し対処を当該審判員に指示すること。(没収試合になることがある。)  
(大会派遣理事が不在の場合は、その日の責任審判が対処すること。)  
未着用にての事故等においては、連盟、本部ならびに当該審判員は一切責任を負いません。
2. インニングの初め(投球練習後)に声を掛け合う際に、捕手はホームベースの前には出てはいけない
3. 前の回の最終打者が捕手で投手の準備投球に間に合わない場合は、
  - ・控え捕手がいる場合は、フル装備にて行うこと。
  - 控え捕手がない場合は、控え選手が立ってキャッチボールを行うこと。上記2項目ともに投球数については制限しないが、正捕手が準備できたらワン・モア・ピッチとする。  
(監督・コーチは行う事はできない。)
4. 打者は打者席に入った後、打撃完了までむやみに打者席から出てはならない。  
(サイン確認は、打者席内で行うこと。)
5. 投手は打者が打者席にいて準備ができているのを確認してから投球を開始すること。
6. インニングの合間の投球練習中に控え選手がファウルライン際に並ぶことはできない。  
(ベンチ前は可とするが、終了後は速やかにベンチに戻ること。)

7. 試合中むやみにベンチから出てはいけない。
8. 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。
9. その回の先頭打者は、準備投球が終わるまでネクストバッタースボックスで、待機すること。

但し、ボールの行方をしっかりとみていること。

立ちあがって 削除 加筆

10. 試合終了後、両チームでグラウンド整備を行うこと。

#### 11. タイムの制限

##### ①守備側のタイム

- ・捕手を含む内野手が1試合に投手のところへ行ける回数を3回以内とする。  
なお、タイブレークとなった場合は、1イニングに1回行くことができる。
- ・上記選手のタイム中に監督が投手のところへ行けば、選手のタイムと合わせて監督のタイムとしてもカウントされる。
- ・攻撃側が作戦指示のためにタイムを取り、打者および塁上の選手を集めた際に守備側の選手が集まるか監督がグラウンド内の選手の所へ行けば守備側のタイムとしてカウントされる。  
※攻撃側のタイムより守備側の指示が長引けば守備側のタイムとして数える。

##### ②攻撃側のタイム

- ・攻撃側監督が作戦を伝えるために、タイムを掛けて選手を呼び寄せることは1試合に3回までとする。  
なお、タイブレークとなった場合は、1イニングに1回行くことができる。
- ・守備側の作戦タイムを利用して、攻撃側が打者または塁上の選手を集めて指示した場合、攻撃側のタイムとしてもカウントされる。  
※守備側のタイムより攻撃側の指示が長引けば攻撃側のタイムとして数える。

##### ③監督のタイム

- ・監督がタイムを掛けて投手の所へ行けるのは、1試合に3回までとする  
(タイブレークは1イニングに1回)
- ・監督が明らかに選手を使って指示等をした場合は、監督のタイムとしてカウントされる。

12. 学童大会は、6回戦または時間制限とし試合開始後1時間20分を経過した場合は、新しいイニング入らないこと。(低学年大会は、5回戦、1時間20分に読替えること。)

(3年生大会は、5回戦、1時間10分に読替えること。)

少年大会は、7回戦または時間制限とし試合開始後1時間30分を経過した場合は、新しいイニング入らないこと。

1時間30分に修正

決勝戦の制限時間は、1時間30分とする。

(3年生大会は1時間20分に読替えること。)

(少年大会は1時間45分に読替えること。) 加筆

学童6回(少年7回)完了または試合時間が経過して同点の場合は、タイブレーク方式で試合を続ける。

継続打順で、前回の最終打者を1塁走者、その前の打者を2塁走とし、0アウト1・2塁の状態にして行う  
2イニングを限度として行う。決着がつかない場合は抽選とする。

### 13. コールドゲームに関して

①得点差によるコールドゲームは、4回終了時7点差とする。

4年生以下の試合は3回終了時10点差、4回以降7点差とする。

②天候状態の為に、コールドゲームが宣せられた場合は、正式試合とする。

・4回を終了すればゲームは成立する。

4年生以下は3回を終了すればゲームは成立する。

・4回以降、4年生以下は3回以降の均等回の得点で勝敗を決める。

### 14. 特別継続試合に関して

①暗黒雨天などで、4回を過ぎまたは制限時間が過ぎて正式試合になって

同点で試合中止となった場合は、特別継続試合とし中断されたところから再開する。

(投球数も継続し、一度退いた投手は戻ることできない。)

注1 選手は中止になった試合の打順表に記入した者以外は出場できない。)

注2 日程上、同審判員クルーで行わない場合がある。

②4回以前(正式試合にならない場合)でも特別継続試合とする。

③決勝戦については、再試合とする。

### 15. 投手の投球数制限について

投手の投球数制限については肘・肩の障害防止を考慮し、1人の投手は、1日制限球数内を投球できる。

1日制限球数 学童 70球 (4年生以下は60球) 少年 100球

試合中に制限球数に達した場合、その打者が打撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。

修正

・投手が制限球数に到達していない場合で、他の守備についたら再び投手に戻ることが出来る。

(東軟連ルール採用) 削除

・やむ負えずダブルの試合を行う場合も合計制限球数までとする。

・ボークで投げてしまった場合もカウントする。ただし牽制球は含まない。

・タイブレークにおいても投球制限数まで投球することができる。

### 16. 投手の投球並びに捕手の返球に関してボールをユニホームにこする行為を禁止する。

ただし、素手でボールをこする事は許される。(※行為があればボールを交換する)

### 17. 守備側の監督がタイムを要求し、打者を申告敬遠する意思を球審に示した場合はボールデットとし

タイムのジェスチャーを行い、打者に対して一塁への進塁の指示を行う。二人の打者を連続して行う

場合は一人目の打者が一塁に達した後、二人目の申告を受ける。 R5.04.17 加筆

### 18. 4年生以下選手は、投手～捕手間が14mでの大会以外で投手となれない。

## 【審判員に関して】

1. ・派遣審判員、チーム審判員は所定の時間に本部に集合し指示を仰ぐこと。

第1試合開始予定1時間前、第2試合開始予定以降は30分前に集合して本部にて待機すること。

(後審に入る場合は、該当試合前に本部に連絡すること。)

2. ・審判帽子、審判スラックス、審判上着又は無地で水色、紺、黒色

黒色の靴、黒又は紺色の長靴下を着用すること。

(派遣審判員は、足少連審判服装が望ましい。)

3. ・控え審判員も審判員と同様の服装を着用すること。
4. ・チームジャンパー、時計、リストバンドは不可とするが、飛沫感染防止マスクについては、大会本部の指示に従うこと。  
注1 感染防止対策として飛沫感染防止マスクの着用を義務図かれている期間等。  
注2 熱中症予防対策として飛沫感染防止マスクを外さねばならない期間等。  
(整列時および選手交代対応時は、着用が望ましい。)
5. ・試合前、試合後の責任審判立合いのもとクルーミーティングを行うこと。  
(グラドルール確認、判定範囲の確認等)
6. ・球審は、J.S.B. Bマーク、S.Gマーク付きマスク、プロテクター、ファールカップを装着すること。  
(安全上、レーガースの装着をお勧めいたします。)
7. ・チーム審判は、各チーム2名。(塁審2、控え審判2)

## 【用具、装具等について】

1. ・バットは、公認野球規則で、規定されるものの、次による。
  - ①バットは、一本の木材で作った木製バットのほか竹片、木片などの接合バットであること。  
(木製バットについては公認制度を適用しないが、着色の制限はある。)
  - ②金属、ハイコンバット(複合)は、J.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認のものに限る。  
素振り用パイプ及びリングの使用を禁止する。  
注1 少年・少女(中等部)は、学童用バットの使用はできない。  
注2 後付けグリップ等、市販のJ.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認バットに付け足しや改造が見受けられた場合は、**使用禁止とする。**  
**但し専用テープ等で固定し、被覆されたなだらかな形状のものであれば使用を認める。**  
R5.04.17 加筆
2. ・捕手はJ.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認レガース、プロテクターおよびSGマーク付き(2024年より適用する)のマスク(スローガード付)、捕手用ヘルメットを着用しなければならない。  
R5.04.17 加筆  
またファールカップも着用しなければならない。
3. ・打者、次打席者、奏者、ベースコーチは、J.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認およびSGマークのついた両側にイヤラップのついたヘルメットを着用しなければならない。
4. ・ボール、バット係も同様のヘルメットを着用のこと。  
(球審にボールを渡す時にヘルメットを脱ぐ必要はない。)
5. ・ユニフォームのロングパンツは禁止とする。(監督・コーチ含む)
6. ・スパイクの色は、自由とし、全員同色でなくても構わない。(監督コーチ含む)  
学童部の試合に限り運動靴でも認めるが、金属スパイクは使用できない。
7. ・サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。
  - ①投手のサングラスの使用を認める。ただしミラーレンズは、除く。 R5.04.16修正
  - ②監督は、選手交代・抗議等の際は外すこと。

③野手がサングラスを庇の上に乗せることを認める。

8. 顎ガード付きヘルメットの使用について R5.04.17 加筆

(1)SG基準改正後にSG基準を満たしたものに限り使用を認める。

(2)SG基準改正後にSG基準を満たした顎ガード付きヘルメットであっても、不正は改造(使用上認められてないにも関わらずパーツを勝手に取り付けるなど)をしたり、破損していたりする場合など、安全性を欠く場合には使用できない。

(3)既に使用・保有してる顎ガードのないヘルメットに、後から顎ガードを取付けることは認められない。

9. 保護具の商標表示について R5.04.17 加筆

1. 手袋	商標表示:1か所(手の甲側)	大きさ:14cm <sup>2</sup> 以下	色の規制なし
2. リストバンド	商標表示:1か所	大きさ:14cm <sup>2</sup> 以下	色の規制なし
		バンドの長さ:15cm以下	
3. サポーター	商標表示:1か所	大きさ:14cm <sup>2</sup> 以下	色の規制なし
4. アームスリーブ(野手)	商標表示:1か所	大きさ:14cm <sup>2</sup> 以下	色の規制なし 片袖可
アームスリーブ(投手)	商標表示:1か所	大きさ:14cm <sup>2</sup> 以下	アンダーシャツと同色で両袖
5. レックガード	商標表示:1か所	大きさ:14cm <sup>2</sup> 以下	色の規制なし
6. エルボーガード	商標表示:1か所	大きさ:14cm <sup>2</sup> 以下	色の規制なし
7. 手甲ガード	商標表示:1か所	大きさ:14cm <sup>2</sup> 以下	色の規制なし
8. リストガード	商標表示:1か所	大きさ:14cm <sup>2</sup> 以下	色の規制なし
9. ネックウォーマー	商標表示:1か所	大きさ:14cm <sup>2</sup> 以下	色の規制なし
10. 走塁ガード手袋	商標表示:1か所	大きさ:14cm <sup>2</sup> 以下	色の規制なし

※各保護具への「ネーム」「背番号」の刺繍は認めることとし、色の規制も行わない。

【その他注意事項】

1. チーム旗、横断幕はグラウンド内の掲示を禁止する。
2. バックネット裏の観戦は禁止とする。(一般人を除く)ただし、ビデオ設置は可とする。
3. 観覧席があるときは指定の場所で観戦する。
4. 自転車での移動は十分注意する。(2020年4月より自転車保険が義務化されました。)
5. 学童の試合のホームベースは、一般用を使用する。

R5.04.17 「但し整備されてないグラウンドに関しては学童用をそのまま使用する。」削除

平成26年04月27日 制定

平成29年01月19日 追加・一部改訂

平成31年04月21日 追加・一部改訂

令和03年04月15日 追加・一部改訂

令和04年02月09日 追加・一部改訂

令和04年07月13日 追加・一部改訂

令和05年04月18日 追加・一部改訂